

# 平和記念だより

100

2026年7月

◆編集・発行/高松市市民局人権・男女共同参画推進課 高松市平和記念館  
◆連絡先/〒760-0068 高松市松島町一丁目15番1号 たかまつミライエ 5階  
TEL(087)833-2211 FAX(087)833-2244

## 平和記念だより第100号を迎えて 館長 青木英城

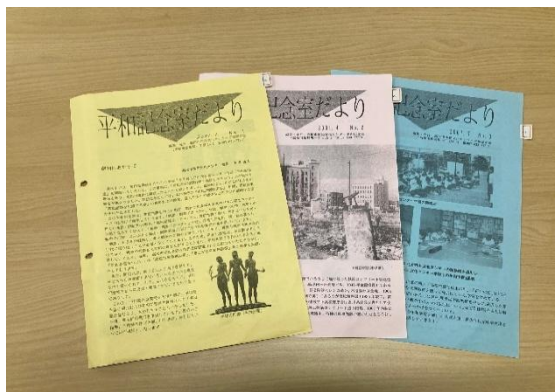
2001（平成13）年1月に旧平和記念室開館5周年を記念して創刊した平和記念だよりが、本号にて100号という節目を迎えることができました。

こうして記事をお届けできているのは、熱心にお読みいただいている皆様のおかげです。心より感謝申し上げます。

昨年は戦後80年の節目を迎えました。世界的にみると、日本は80年の長きにわたり平和を維持することができている数少ない国家であり、この状況が続いていることもこの平和記念だよりが続けられる要因です。

これからも、この平和な状態が末永く続くことを望みつつ、100号、200号と歩みを止めず、皆様にとって価値ある情報を発信してまいります。引き続きご愛読のほど、よろしくお願い申し上げます。

平和記念だよりの第一号は、平和記念館の前身である市民文化センター平和記念室から2001（平成13）年1月に「平和記念室だよりNo.1」として発行されました。その内容の一つ目は、「高松市平和資料館の建設を求める会」が市民から署名を集め、高松市議会に請願したことにより「平和記念室」が開設されたこと。二つ目は、平和記念室開設以降5年間の歩みとして開催された「平和を語るつどい」「平和映画祭」、「高松市戦争遺品展」などの足跡。三つ目は、「戦前・戦時下の高松」として、当時の国民の生活窮乏化を展示物や解説で紹介していることです。



初期の平和記念室だより

続いて「平和記念室だより No.6」では、戦時用語解説がシリーズ1『赤紙（臨時召集令状）』からスタートし、現在シリーズ82になっています。また、「平和記念室だより No.7」からは、収蔵品紹介シリーズ1がスタートし、『高松空襲被災写真』とそれを撮影した松浦薫さん（後の衆議院議員や坂出市長を勤めた人物）を紹介し、現在シリーズ90になっています。さらに「平和記念室だより No.9」では、2002（平成14）年、川島公民館において開催した「第一回収蔵品巡回展」で、戦時中の陸軍林飛行場に置かれていた模擬飛行機の木製プロペラなどの展示の様子を紹介しています。このように平和記念室の活動内容の充実と共に、現在の平和記念だよりへと繋がっています。

# 平和を語るつどい・憲法記念平和映画祭

令和8年5月9日(土)、たかまつミライエ1階多目的室において、「平和を語るつどい・憲法記念平和映画祭」を開催しました。

第一部の「平和を語るつどい」では、エルダーキャッツの皆さんによる、朗読劇「高松空襲の夜」が上演されました。防空壕での避難者のやりとりを再現し、焼夷弾が落ちてくる音や熱で不安になる市民の様子が語られました。また、空襲の最中、新しい命の誕生の場面では、喜びの反面、これからどうなるのだろうと考えさせられました。



エルダーキャッツ「高松空襲の夜」

第二部の「憲法記念平和映画祭」で上映した映画「長崎 一閃光の影で」は、1945年8月9日の長崎原爆投下直後、自ら被爆しながらも救護活動に奔走した看護女学生を描いています。想像を絶する惨状の中で、尊い命を救おうとした姿勢に感動するとともに原爆の恐ろしさが伝わる映画でした。

ご多忙の中、ご来場いただいた皆様、ありがとうございました。

## 参加者の声

◇アンケートにご協力ありがとうございました。◇

■朗読劇も映画も、私の知らない世界でした。この戦争をしていた世界を体験することなく生きてこられた幸せを実感した時間でした。未来が平和な世界として続いて欲しいです。

■今は92歳です。高松空襲の時は10歳の出来事で、はっきりおぼえています。新川の河口へ妹をおんぶして、早朝に海に入った当時のことは、今もしっかり思い出されます。

■朗読劇は心に深く響きました。今の平和の毎日が当たり前ではないことを感じ、私にできることは何かと考えています。このような機会があり、とてもありがたかったです。

## 高松空襲展開催中 6月26日(金)～7月6日(月)

### 高松空襲展 「忘れてはならない過去の惨禍」

- 展示物**
- ・空襲後の高松市街 (迷彩色の百十四銀行本店ほか)
  - ・空襲を描いた絵画 (落ちてくる焼夷弾、逃げる人々ほか)
  - ・焼夷弾について (米軍のB29爆撃経路図ほか)
  - ・グラマンによる空襲 (陸軍林飛行場空襲、女神丸事件)
  - ・高松空襲の惨禍をたどる (法泉寺大釈迦像ほか)

**映像資料** DVD「高松空襲6人の証言」

**VR体験** 「原爆投下前後の広島」

高松空襲体験者との交流会 7月4日(土) 午後1時30分～

※申し込み済みの学生のみ参加

場所 たかまつミライエ6階 学習研修室

**プラネタリウムとコラボ企画** 7月4日(土) 午前11時15分より約30分

「星のかなたへ～高松空襲の星空1945年7月4日～」

平和記念館職員とプラネタリウム職員が星空の下でお話します。

場所 たかまつミライエ5階 プラネタリウム

入場 無料(先着80名) ※小学校高学年以上を対象とします。

## ▽今後の行事予定▲

7月

- **高松市戦争遺品展**  
期 日 令和8年7月10日(金)～7月16日(木)  
場 所 瓦町 FLAG 2階 コンコース  
内 容 当館収蔵品等を展示
- **教職員のための平和教育講演会**  
期 日 令和8年7月27日(月)  
場 所 たかまつミライエ 会場については未定  
内 容 講演(内容未定)と「平和学習」の説明

8月

- **原爆パネル展**  
期 日 令和8年8月4日(火)～8月10日(月)  
場 所 瓦町 FLAG 8階 IKŌDE 瓦町展示コーナー  
内 容 原爆関連資料の展示

## 平和映画☆上映会のお知らせ

平和記念館映像学習室において、次のとおり平和映画を上映します(無料)。

### 7月の上映 「おこりじぞう」(28分)

- 日 時▶ 開館日の土・日・祝日、午後1時～ ※7月11日(土)から  
解 説▶ 昭和20年広島、ひろちゃんは「わらいじぞう」とよばれるお地蔵さんが大好きだった。8月6日、朝8時15分、光や音とともにものすごい大爆発が起こった。大やけどをおったひろちゃんが水を欲しがったその時、怒った顔にかわったお地蔵さんの目から涙がこぼれ落ちた。



### 8月の上映 「対馬丸-さようなら沖縄-」(75分)

- 日 時▶ 開館日の土・日・祝日、午後1時～  
解 説▶ 昭和19年夏、戦争が激しくなり、沖縄の子どもたちを学童疎開させることになった。疎開船「対馬丸」は8月21日那覇を出航。しかし、翌22日夜、米潜水艦の魚雷攻撃を受けた対馬丸は、一瞬のうちに沈没し、多くの犠牲者を出してしまう。ドキュメンタリー小説を原作とするアニメーション。



### 9月の上映 「ボクとガク -あの夏のものごと-」(42分)

- 日 時▶ 開館日の土・日・祝日、午後1時～  
解 説▶ 小学生のボク(藤村希望)とガク(横田岳)を仲直りさせるために、一人暮らしの高齢者(美代)が語ったのは、八幡大空襲で亡くなった兄の話。空襲で亡くなった人々の分まで懸命に生きてきた美代の思いを知り、ボクとガクの絆は一層強くなる。平和と人権の大切さを訴えるアニメーション。

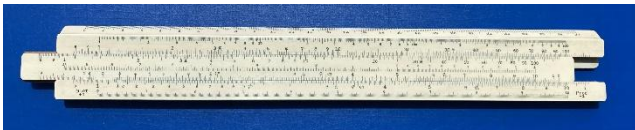


※ 都合により、上映作品・期間等を変更することがあります。

寄贈者が、昭和10年代の学生の頃に使用していたものである。

対数(log)の原理を利用して、掛け算や割り算、三角関数、平方根などをアナログ的に計算する目盛付きの道具。1620年代にイギリスで開発され、日本に伝わってから、日本独自の計算尺が開発されている。1970年代に電卓が普及するまで、技術者や科学者たちが設計時の計算主力として用いた道具である。有効数字は主に三桁程度で、精密な数値計算には向かなかったが、概数計算が速くできるというメリットがあった。

映画「アポロ13」やアニメ「風立ちぬ」のワンシーンに計算尺を用いる様子が使用されている。



平和記念館「戦時中の教育に関するもの」コーナーに展示中

参考：「計算尺の歴史」

ヘンミ計算尺株式会社ホームページより

## 編集メモ

戦時中の瀬戸内海では、特攻潜水艦「回天」の基地だった大津島(山口県)、毒ガスを製造していた大久野島(広島県)、また香川県小豆島には、特攻「マルレ艇」や特攻潜水艦「蛟竜(こうりゅう)」の基地が、さらに詫間には、神風特別攻撃隊「琴平水心隊」が編成されました。私たちのよく知る瀬戸内海の美しい島々が、当時の軍国主義の拠点になっていた怖さを実感できます。

本館の平和学習を契機とし、学校での歴史学習に関心が高まり、平和を続けていくことの大切さを考えられる子どもたちが育って欲しいと思います。



たかまつミライエ

### 高松市平和記念館 (たかまつミライエ 5階)

開館時間：午前9時～午後5時(入館は午後4時30分まで)

休館日：火曜日(祝日の場合は翌日)、年末年始12/29~1/3

入館料：無料

▼ホームページアドレス(平和啓発の推進事業がご覧いただけます)

<http://www.city.takamatsu.kagawa.jp/kurashi/shinotorikumi/jinken/keihatsu/heiwa/index.html>



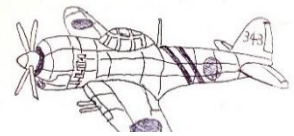
▲QRコード



## 紫電改

【読み】しでんかい

【分類】局地戦闘機



水上戦闘機「強風」を陸上戦闘機化したものが「紫電」で、さらにそれを高性能化したのが「紫電改」である。開戦後に大活躍した零戦が、次第に高性能化してきた米軍艦載機グラマンに歯が立たなくなってきた。そこで、旧日本海軍が川西航空機に依頼し、設計、製造した対グラマン用の決戦兵器である。第343海軍航空隊「剣(つるぎ)部隊」に集中配備され、四国の松山基地を中心に、四国から九州の防衛に当たり、多くのグラマンを撃墜した記録が残っている。

昭和53年に豊後水道の海底からほぼ完全な機体が発見され、現在、実物機体として愛媛県南レク馬瀬山公園内の紫電改展示館で保存されている。さらに令和8年4月に鹿児島県阿久根市沖から二機目の機体が引き上げられている。

参考：「日本海軍、最強の戦闘機 紫電改」  
発行 株式会社サンケイ出版社